

ティーンエイジ会議報告書

1 概要

- (1) 名 称 ティーンエイジ会議
- (2) 日 時 令和元年8月7日(水) 11時～15時
- (3) 会 場 希望丘青少年交流センター3階 多目的ホール
- (4) 目 的 「子ども計画(第2期)後期計画」の策定に向けて、当事者である子ども・若者の声を聞くために、これからの世田谷区について本音で語り合えるようなワークショップを実施する。
- (5) 対象者 区内在住・在勤・在学の中高大学生世代の子ども・若者(25名参加)
- (6) タイムスケジュール及びワークショップの内容

【午前の部】11:00～12:15

- 10:45 開場(受付開始)
- 11:00 開会 挨拶
- 11:05 ワーク①開始
全体進行1名、各グループにファシリテーターを配置
 - ・ワークショップの概要・ルールの説明
 - ・アイスブレイク 『世田谷好きメーター』
(きらいー100～好き100までの間にシールを貼り、その理由を述べ、
どうなったら100になるかななどを議論)

【昼食】12:15～13:00

- ランチ・休憩
- ワーク①の成果物を壁に貼り共有を図る

【午後の部】13:00～

- 13:00 生活実態調査概要報告
(ワーク①の議論との重なりを考慮して情報提供)
- 13:05 ワーク②開始
 - ・『世田谷がこうなったらいいな』
 - ・ティーンエイジの声を集める
 - ・ハードの話だけでなくソフトの話も交えて
- 14:05～ 発表に向けた整理
- 14:30～ 各グループ発表及び講評
- 15:00 閉会

2 ワークショップまとめ

1-1 ワークショップ① 世田谷って好き・きれいについて

世田谷区は好き？好きメーターで今の点数をつけてみよう！というワークでは、どのグループも初めは半数以上が高い点数をつけていたが、話をしていく中で再度聞いてみると、点数が落ちていく子ども・若者が現れた。最終的な点数としては、高い点数をつけた人は **42.1%** となり、対して、低い点数をつけた人は **57.9%** と、半数以上が世田谷での暮らしや居場所などについて不安や不満感があることが分かった。会場から聞かれた声を分類していくと、世田谷が好きな理由としては特に「**自然**」、「**交通**」、「**商店・施設**」が多かった。世田谷が嫌いな理由で多いのは「**学校**」、次いで「**商店・施設**」、「**行政・公共空間**」の順である。



《せたがや好きメーター》

1-2 ワークショップ① 世田谷が「好き」の問いに対して

世田谷に対して「好き」が多かった「自然」、「交通」、「商店・施設」の中では、「世田谷は住宅街という印象が強いまちだが、意外と自然も多い」「交通が便利・路上喫煙やゴミが少ない」「なんでもある（店で困らない）」が挙げられていた。その他では「中学生まで医療費が無料」、「知り合いと知り合いが繋がっている」「住んでいるところだから好き」など。注視した部分としては「道が狭い、お店も意外とない」、「落書きやゴミが多い」、「住んでいるところだから好き。特に友達がいなくても」という意見もあった。学校独自のルールや地域独特の人間関係や地域性などが見える発言となった。初めの好印象なイメージと相反するように、ワークショップを進めていくと子ども・若者ならではの悩みが見えてきたのが特徴的だった。

1-3 ワークショップ① 世田谷が「嫌い」の問いに対して

世田谷に対して嫌いの理由が多かった「学校」「商店・施設」「行政・公共空間」の中では、「いじめ・不登校の問題」、「本屋が少ない、たまれる場が少ない」、「落書きやマナーに関して」が挙げられた。その他では「立地の問題から行くのにお金がかかったり、その場にいるのにお金がかかったりする。いける場所がない」、「子どもの声を聞いてくれない」、「中高生に向けている情報が難しい。そもそも本人たちがどのくらい認識しているか分からない」など。注視した部分としては「貧富の差が激しい（肌身で感じている）」、「(いじめに対して) SOS が出せない」、「児童館は小学生までが遊べるというイメージが多い気がする」という意見もあった。子ども・若者に対しての支援や情報、また、大人や社会に対しての子ども・若者の声が届きづらいという印象が、彼ら彼女らの声から見えてきた。

2-1 ワークショップ② 世田谷がこうなったら良い「現状・課題」

世田谷がこうなったら良いというワークで出てきた現状・課題として「居場所」「学校」が特に多かった。「居場所」では「そもそも「居場所」の「支援」など大人から子ども（当事者）に与えてやっている感がある。また大人が勝手に作っている印象を受ける」、「小規模で、アットホームな居場所がもっとたくさんあったらいい」、「世田谷区に住んでいる人たちはより良い学校に行くために塾へ行ったり、私立の学校へ行ったりが多い。それによって地域のつながりも無くなってしまっている気がする。残念。塾へ行く子達が多く、塾はその子たちの居場所になっているという話を聞いたことがある。居場所にお金を払うってなんだろうと思う」という意見があった。学校では「学校以外の姿も（先生に）見て欲しい」、「LINEでの「いじり」が「いじめ」に変わってきた」、「卒業したら、次の所へ行かなくてはいけない。受け入れてくれる先生はいるが、先生次第という感じ」という意見があった。その他では「公園が子どもの遊ぶ場所でなくなっている」、「 Cheer!や区報などが、どこに置かれているのか分からない」、「昔から住んでいる人、新しく入ってきた人の差を感じる。子どもの頃から住んでいない人が馴染めていない？だから公園などでの禁止が増えているのではないか」などが挙げられた。

2-2 ワークショップ② 世田谷がこうなったら良い「願い・想い」

世田谷がこうなったら良い「願い・想い」に対して、どうすれば良いか・どうなって欲しいかという話では「居場所」「情報」が特に多く、次いで「学校」が挙げられた。「居場所」では、「集まれる場所があれば小さくても良い」、「高校生同士で話していても、騒がしいと言われない場所。ただしゃべっているだけで迷惑と言われていると辛い」、「自習できる＋おしゃべりができる場所。塾の自習室だと私語厳禁で友人と教え合いながら勉強することができない。おしゃべりしながら勉強できる場所がほしい」という意見があった。情報では「情報は普段は周りの大人（児童館職員など）から聞く。知りたいと思って調べたり、意識したりしないと知ることができないので、もっと日常の中で知ることができたらいい」、「（紙媒体の通信など）配っても見ない人はいるから、学校の授業（社会科見学）として、施設に行くのがいいと思う」、「居場所のまとめサイトを作れば、そこで知って色々なところへ行くきっかけになるかもしれない」という意見があった。その他では「大人向けの健康器具が多いのが悪いと思っている訳ではない。子どもに対する禁止が多い。私たちの遊びたいきもちを理解して欲しい」、「まず学校の先生など、子どもにとって身近な大人が子どもの居場所を理解することが大切だと思う。だから社会科見学とかで、施設に来て欲しい」、「地域のつながりを強くするために、いろいろなボランティアを頻繁にできる環境をつくる。限られた人しか取り組んでいないのが現状。もっとみんなが関わったら、経験になる。いろいろな技の習得にもつながる。（例えば、PA 機材



《ワークショップの様子》

の扱いとか。仕事にもなるかも？俺は好きにやりたいから仕事にはしないけど)」という意見があった。

「世田谷がこうなったら良い」のワークでは、社会や大人に対しての不満や諦めなどが見受けられた。その中で「じゃあこれがどうなったら良くなるのだろう？」と考え出すと、大人が思っていた以上に様々な意見や提案が出てきた。そして、子ども・若者の意見を聞いていく中で「大人に伝えたい！」「声にならない声を聴いてほしい！」と思う場面が多くあった。「どうせ大人は聞いてくれないしな…」「子どもの意見は求めてないからね」という言葉をこうした公の場で聞く事が出来たことは大きな一歩だと思った。